

目黒区の児童が田植えを体験

— J A 青年部と公社が支援 —



▲真っ直ぐに引けないライン引き



▲二人、仲良く苗運び



▲ドロにまみれて初めての田植え

五月十八日から三日間、東京都目黒区の緑ヶ丘小学校（志茂 暁子校長、児童二百三十六人）の五年生三十七人が、「春の農業体験学習」を行いました。これは、総合学習の一環として今年初めて企画したもので、十二年前から、目黒区内の小学校で稲作指導をしている角田地区農協青年部と角田市農業振興公社が支援。

一日目は、四方山にハイキングし角田市内を展望。二日目は、枝野地区青年部の水田

イチゴの収穫や
トマトハウスも見学

ら、「まなむすめ」を植えました。田植え終了後、青年部から「早振り」の説明を受け、楽しく餅つきを行いました。

三日目は、収穫中のトマトハウスの見学とイチゴの収穫を体験し、角田の味覚を味わいました。児童が植えた水田は、J A 青年部枝野支部の皆さんが管理し、秋に収穫作業を体験します。



▲大きいトマトにビックリ

十坪で田植えを体験。裸足になった児童は、泥の感触と水の冷たさを感じながら、「まなむすめ」を植えました。

産直市

「新鮮屋ベジ太郎」オープン



六月十日、角田産の新鮮な野菜を多くの人に食べてもらおうと、大河原町の J A みやぎ仙南 A コープ大河原店に、産直市「新鮮屋ベジ太郎」がオープンしました。

これは、西根地区の農家を中心に組織された「新鮮屋ベジ太郎会」（伊藤稔代表、会員二十名）が企画したもので、農薬の使用を抑え、有機肥料で育てた野菜をその日の朝に収穫し、販売するものです。

産直市は A コープの定休日を除き毎日開催されます。

角田の新鮮な野菜を

大河原で販売